

**【祝福される幸いな家庭の十戒⑤:親を敬う家庭】**

説教者:鄭南哲牧師

聖書本文:出エジプト記20章12節・エペソ人への手紙6章1-3節/暗唱聖句:エペソ人への手紙6章2-3節

聖書:出20:12 あなたの父と母を敬え。あなたの神、【主】が与えようとしているその地で、
あなたの日々が長く続くようにするためである。

エペソ 6:1 子どもたちよ。主にあって両親に従いなさい。これは正しいことだからです。

6:2 「あなたの父と母を敬え。」これは約束を伴うもの第一の戒めです。

6:3 「そうすれば、あなたは幸せになり、その土地であなたの日々は長く続く」という約束です。(新改訳2017版)

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん!一週間も主の平安のうちにみなお元気でしたか。また愛知県内でもまたコロナが急増し始まっています。まさにコロナの第二波が始まっているような気がします。これから共にさらに徹底的に予防に心掛けて行きたいと願っております。礼拝の時と同じように、もしアワナや牧場の集まりをされる時には、是非同じく、検温、手消毒、マスクをちゃんとして下さるように心からお願い致します。しかし、今年4月の緊急事態宣言の時のような時とは違うと思います。今はもうみんなが人から人へ移るコロナ感染の予防策はよくご存じです。身に就いていらっしやと思いますので、恐れすぎないで、各家庭で、教会でより共に徹底的に予防しつつ、みんなの安全と健康の為に共に祈って行きたいと願っておりますので、どうぞ宜しくお願い致します。

今日は十戒の5回目の戒めである「あなたの父と母を敬え。」という内容で共に聖書を通して学びたいと願います。

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん!

家庭は神様が人に与えて下さった地上で体験できる小さな天国のようなところです。そして、天国の父なる神様は地上で小さな天国である家庭の中で親を立たせ、親の存在を通して、家族に神様の愛を味わえさせて下さいました。親の愛は神様の大きい愛の光を照らす光のようです。このように神様の目で親をみるなら、だれがあえて我々の父、母をむやみにすることができるのでしょうか。16世紀の宗教改革者だったマルティン・ルター先生は「親の方々はこの世の中で神様の代理人たちだ」だと教えました。

両親の存在と愛はまさに神様の愛を反映する小さな光たちであるということでしょう。今日神様は我々に御子イエスキリストをお与え十字架によって値無しの、尽きない真の愛と犠牲を許しながら、その神の愛を信じる全ての者に救いを与えて下さった神様は我々のために、こう命令しておられます。「あなたの父と母を敬え」と。この神の命令は我々がこの地上で幸せになる為の鍵となる戒めであり、家庭の中での関係の回復のための始めての鍵にもなります。そして、自分の人生が祝福され、さらに自分の子供たちが祝福されるために、この神の命令に従順しなければならないことを神の十戒の5番目である戒めの内容です。みんな、親に従うことを知らない人々は世の中いらないでしょう。

<1. 日本の家庭の中での悲しい現実>

しかし、現実はいかがでしょうか。今日日本の社会は年を取った親がお元気で、長生きをされるケースが増え、それはとてもありがたい感謝なことですが、とっとも早いスピードで高齢化が進んで、年を取った親が増えている中、残念ながら様々な問題が多く発生し深刻な状況となっています。高齢の親を大きくしたその子供が虐待する犯罪の中高齢者虐待事件は家庭内で急増され、原因は「介護疲れ・介護ストレス」が最も多く、虐待をしているのは息子が41%で、その後夫、娘との順での虐待が多いという統計があります。

このような統計を通して、分かるのは大変残念ながら、高齢の親を虐待する事件が急増されていることとさらにもっと残念なのは家庭で発生された高齢者親への虐待事件の大体の被害者は女性、つまりお母さんたちが約77%を占めている事です。その加害者たちは見知らぬ他人ではなく、その母たちが生んで、一生育てて来た息子や一生愛して来た旦那たちが半分以上を占め、特に、息子が40%以上として一番加害数値が高く、その次は主人と娘の順番だったのです。家庭内での高齢者親への虐待の種類も「力がなく年を老(お)いた親に対して犯す身体的虐待が64%で一番高かったし、その次は心理的虐待(36%)、介護放置や放棄(ネグレクト29%)、財産強奪(ざいさんごうだつ)などの経済的虐待(27%)があったと調査内容でしたが、みなさんはこの衝撃な内容を見てどう思われますか。

これらの問題が深刻になってきたため、日本政府は2006年4月1日より施行された「高齢者(65歳以上)虐待防止法」を実施し、年を老いた親たちを守るための装置を法的に作ったのも残念なことなのに、それにもかかわらず、厚生労働省によると、2年前2018年から、高齢者親への虐待数は、自宅で年間1万7千件以上となり、過去最多最悪17,249件となっていて、それに関する悩み相談や通報件数は2倍以上3万件以上に上っていることを発表し、さらに高齢者虐待防止の強化の指示を出しているところであります。

人としての一番基本的な倫理や守るべき家庭の中の秩序が崩れさせるこんなあり得ないひどい犯罪が頻りに起こっ

ているのが今の日本の家庭の中の実情であります。

年を老いた親との問題以外にも、最近はお小遣いをくれないという理由で中年の親を暴行したり、おばあちゃんから叱られたということで孫がおばあさんを殴ったり、殺害したり、父親をなぐったり、財産をねらって親を殺害したり、病気や施設に親を捨てたかのような無関心、口に出せるのも恐ろしい犯罪が家族の中で特に年を老いた親に対して犯されているのを見てもみなさんはどう思われますか。みなさんの家庭は大丈夫そうですか。みなさんのお子さんたちは、決してそうならないという確信を持っているでしょうか。急変している現代に崩れている家庭、家族関係の中で、どうすれば、我が家庭は守られ、本来の祝福された幸いな家族として行けるでしょうか。実は、今日の神の十戒の戒めは、神を信じる全ての家庭がそのように守られ祝福されるために、与えて下さったのは、5番目の戒めであります。

<2. 親に対する約束のある第一の戒め>

愛するみなさん! 歴史の中で今の急変している時代にとっても似ていた時代と言え、それは歴史の中1世紀のローマ帝国時代だと言えと思えます。1世紀ローマ帝国が全世界を征服することにより、もたらしたいわゆる開放的なローマ文化、そしてローマの植民地文化は当時人々が守られて来た家庭中での秩序や倫理から人々を解放させたかのように見えたが、実際には家庭の中結婚、夫婦関係、親子の関係など脱線され、崩壊(ほうかい)し始まる原因ともなりました。このような時代に使徒パウロは当時小アジアで一番ローマ的な都市だった今日のトルコにあるエペソでイエスキリストを信じクリスチャンになって群れによって建てられたエペソ教会に向かって何よりも、クリスチャンであるなら、まず家庭こそ、神によって造られ、祝福される場所としてしっかり守り、家庭の創始者神に立ち返り改めて立たせるべきだと教えました。特に今日の本文であるエペソ人への手紙6章でパウロは親へのクリスチャンの責任を強調しながらこれは人が守るべき約束のある第一の戒めだと教えます。これはどんな意味ですか。

本来、十戒は二つの石の板に分けて神様がモーセに渡してくださいました。一つ目の石の板には第一戒めから第四まで、二つ目の石の板には第5から第十の戒めまで書かれていました。一つ目の石の板に記録された1から4までの戒めは神様との関係において人間が守るべき戒めが書かれていました。そして、二つ目の石の板に書かれている5から10までの戒めは神様が創造された人間と人間の間の関係において守るべき戒めが記録されています。今日神様から与えられた十戒の中でその第5の戒めである内容が“あなたの父と母、つまり、あなたの親を敬いなさい”という戒めを、人として人との関係の中で、まず家族、親子関係の中、まず、第一に守るべきく神様の命令! >であり、神によって造られた人としての一番守り行うべき責任として命じて下さったわけでありませう。

使徒パウロはこの戒めに表われている親への子供としての義務を教えながら、この義務を果たす者たちに与えられている神様からともなう祝福の約束をも一緒に教えています。

つまり、親に従い、親を敬うことにより、神様からのその約束の祝福とは量的には命と健康が守られ、長生きすることであり、質的には必ず幸いな人生となり、物事がうまくいくことを約束されています。

<3. いのちある者としての守るべき創造秩序-親への従順>

それでは、もっと詳しく、今日聖書本文に戻りまして、エペソ人への手紙6章1節に「子どもたちよ。主にあつて両親に従いなさい。これは正しいことだからです。」と言われました。これがなぜ正しいですか。創造主である神様はこの世の親の心に子供のために命と力を尽くそうと、子供たちを守ろうとしている断れない神の責任と良心と本能を許されました。ですから、子供たちは、この世の中、神以外にご自分のように、ご自身のいのちと体を尽くして、無条件的に愛し、支え、育ててくれる唯一の人の存在が間違いなく親の存在なので、だれより、親の言うことに従うことは絶対間違いなく、正しいのです。

ここで、従うという単語は“聞く”という言葉から出た言葉です。よく親が子供たちに“ママ(もしくはパパ)の言うことを聞いて。あるいはちょっと聞いてちょうだい”とよく言われますが、その時の親の心は子供の為、子供を守るための動機から出る言葉でしょう。残念ながら、子供は大きくなればなるほど、親の言うことを聞いて見ようとも、聞こうともしなくなるので、後になって、後悔(こうかい)してしまう時がどれほど多いのでしょうか。しかし、いくら後悔しても追いつかなくなないように気を付けましょう。もちろん、年を老いた親が大きくなった子供よりも、よく間違っただけの情報をいう時もあるし、時や状況に当てはまらない言葉を使う時もあるでしょうけど、子供としていつまでよく親のお話をよく無視せず、よく傾聴する、よく聞いてあげる姿勢だけでもとても大切だと信じます。子どもが子どもから、青年に、成人、中年と壮年になっても、親の目では相変わらずご自分の子どもですから、出勤やお出かけの時には、いつも「あれこれ気を付けてね」とおっしゃることに、返事もなく知らん顔をしたり、神経質にもううるさい! とか、もう分かった! たまれよ! かのようにならぬ態度にならないように気を付けましょう。後親が召されてから、必ず、いつもひたすら自分を心配してくれた親のその声が恋しくて、聞きたくてたまらない、後悔の時が必ず来ますので。

ですから神様は、子供が親の言われる言葉に従うことはいのちのある者として、当然の創造の秩序と原則であることを確かめて下さっています。

これは人間の世界だけではなく、動物の世界においてもいのちのあるものの原則と秩序として通じていることでしょう。親の動物は生まれたばかりの子を養い、えさを与え、守ります。そして子の歩きと走り、或いは飛ぶことやたたくことなどを教えます。このように幼(おさな)くて、弱い子の動物は必要な保護と助けと教育を親の動物から教わります。ですから、動物の世界でも同じく子がお母さんの言うことに本能的に聞き従うことで、生存のために大切なことなのです。ですから、親に対する子供の従順(聞き従う)は神の創造秩序として、生存の法則として、子供たちはこの基本的な基本的な大切に守り行うように教えて下さっています。

愛するみなさん！昔から我々の先祖たちから人間の中でこの世の中一番おろかで、恩知らず人はどんな人だと言われているのかご存知ですか。動物さえも知って従っているのに、人がそれぐらいもできないとすれば、それは 厳しく獣(けもの)よりも劣(おと)るやつだ、と叱られたでしょう。まず、神が許して下さった家庭の中で家族の命が守られ、祝福され幸いな家庭となることを願うなら、子供として親に従順すること、親に聞き従うことを神は命じられておられます。みなさんの家庭は今いかがでしょうか。子どもであり、親であるみなさんが、今の親にそう見せて下さる模範になることで、みなさんの子どもたちも必ずそのみなさんの背中と姿を見て、みなさんに同じくすることになることを是非忘れないで頂きたいと願います。

「子どもたちよ。すべてのことについて、両親に従いなさい。それは主に喜ばれることだからです。(コロサイ人への手紙3章20節)」

<4. 従順と違う敬いー 親の存在価値を心から尊重・尊敬し、感謝することです。>

愛する信仰の家族のみなさん！“敬う”という単語はヘブル語で、‘カベッド(kabhed)’ですが、“重んじる”という意味で親の存在価値を重く、大切に尊重するという意味です。これは人間的な道徳的な、倫理的な基準を越える心で、どんなに素晴らしい親であるか、足りない親でありか関係なく、子供を幸せにさせてくれた親だったか、苦しませ間違った親だったのか何の条件もなく、ただあなたの親の存在であるならば、ありのまま、親の存在を大切に思いつつ、心から愛と尊敬を持って尊重し、仕える態度を子どもとしてあらわすように神様は命じて下さっているのです。

そして、今日の聖書の本文出エジプト20章12節では「あなたの父と母を敬え。あなたの神、主が与えようとしておられる地で、あなたの年齢が長くなるため(2017版:日々が長く続くようにするため)である。」、そしてエペソ人への手紙6章2節を読んで見ると、「あなたの父と母を敬え。これが第一の戒めであり、約束を伴ったものです。」と言われました。神は、使徒パウロを通して、親に聞き従うことでとどまらず、クリスチャンであるなら、さらに進んで、親を敬うことを、神様の命令として、そして、祝福の法則として命じて下り、強調しています。なぜなら、親を敬うこの命令は、親だけではなく、特に子供らの家庭の幸福のためだからです。

神様は人が人としてまず、第一に守るべき、親との関係の中で、その親がどんな親だったとしても親である存在を尊重し、敬うすべての子らに、特別な祝福の約束が伴うように定めておられました。今日の御言葉によると“約束を伴った戒め”だと言われています。それは神様から与えられた十戒の中で、他の戒めにはなく、この戒めだけに与えられている祝福の約束です。その約束とは、出エジプト20章12節では「あなたの神、主が与えようとしておられる地で、あなたの年齢が長くなるため(2017版:日々が長く続くようにするため)である。」、エペソ人への手紙6章3節にも、「そうしたら、あなたはしあわせになり、地上で長生きする(2017版:あなたの日々は長く続く)」という約束です。」と言われました。「あなたの父と母を敬え。あなたの神、主が命じられたとおりに。それは、あなたの年齢が長くなるため、また、あなたの神、主があたえようとしておられる地で、しあわせになるためである。(申命記5章16節)」

親を敬いながら生きるなら、神ご自身がみなさん自身や自身の家庭、子どもたちに至るまで命と健康が守られ、心と体の病や様々な危険から守られ、必ず、その家庭は幸せにさせて下されるという素晴らしい御約束の戒めであるわけです。

神様は、みなさん自身とみなさんの家庭がどうなれば、幸せになれるかすべてご存じであられるお方であり、みなさんの人生を、家庭を幸せにさせることが出来る唯一の全能なる真の神様であられます！必要な命を与え、守り、伸ばし、長生きしながら、地上での幸いな日々を最後まで味わうことが出来るように神様は必ずそのように祝福して下さいと自ら神様がこの祝福の約束を定め、守ろうとしておられます。

ただ、「そうしたら！そうすると！」何をですか。「あなたの父と母を敬いなさい！」とこの神の戒めを守る時に、天の神の約束がすぐ実現されるでしょう。ですから、この戒めは、究極的に親の為でもありますが、子供の人生と家庭の祝福の為に与えて下さった神の愛の戒めであることがわかります。

ここで、もう一つ我々が覚えるべきことがあります。神の創造の法則としての従順と神の祝福の法則としての敬うことには違いがあることを私たちは知らなければなりません。今日私たちが学んでいるこの戒めが我々の人生において祝福されたものとなるためには、親の言うことを仕方なく従う程度の従順ではなく、親の存在！親の存在自体を最後まで大切に、尊重する敬う心構えと姿勢を持った従順さであるべきだということです。

愛する信仰の家族のみなさん！もしくは親の持っている財産が多いからとか、今は親に従うことが自分に得(とく)だからとか、今は親にお世話になって、助けられているから仕方なく、親の言うことに従う心のない従順は実は、だれもできるかも知れません。しかし、敬うことは仕方なくすることではありません。いやいやしながらすることではありません。心から父と母の存在だけでも感謝し、礼儀反することせず、無礼にならず、生きておられるうち心から親を尊重し、愛を持って仕える姿勢を言います。敬う事は召されてから出来る事ではなく、生きておられるうちに可能な姿勢であります。親を敬うことは、具体的に親を楽しませ、喜ばせることであります。(「あなたの父と母を喜ばせ、あなたを産んだ母を楽しませよ。箴言23章25節)」

16世紀フランス宗教改革者カルヴァン先生は、こう言われました。

「親孝行をしなかったのに長生きするのは生きるその自体が神様からの罰であることを覚えなければなりません。」

親は私たちがこの世に生まれて来て出会う初めての人として、彼らへの正しい態度を通してすべての人に対する正しい態度、究極的には神様に対する正しい態度を学ばされます。こんにち大体の人間関係において失敗をくりかえしている方々、もしくは神様を信頼しきれない人々を見ると、親との歪曲(わいきょく)された関係、いやされてない親との傷が心の奥底(おくそこ)にあることがわかります。

ですから、愛するみなさん！自分のためにでも、これからみなさんの子どものためにでも、今のみなさんの家庭が神様に約束されているすべての祝福を受け、これからもさらに幸いな家庭として生きたいなら、今日のこの十戒の第5目の戒めをちゃんと心に留め、親を理解し、親を赦し、親の存在を尊重し、親を愛し始めるべきです。

<でも、ある人にとっては一番難しい神の戒めかも知れません！>

今日は、この戒めがあるこどもであるみなさんにとっては、一番難しい神の戒めかも知れません。問題の多い子供も多かも知れませんが、実は、若い頃の親が自分の子どもを絶えず虐待したり、親の間違いで家族関係が壊れたり、耐えがたい傷を親から受けた方々にとっては、今日の戒めが、相当ハードルが高い、あるいは自分には絶対無理！だと言いたい方もいらっしゃるかも知れません。しかし、聖書によると、親として犯した罪があるならば、子供の手からではなく、神様ご自身がその人生に必ず報いて下さり、隠されたすべてに裁かれる神様でありますから、その報いは神にすべてをゆだねて、任せたらいかがでしょうか。むしろ、神様ご自身こそ、完璧ではない親であることをよくご存じではありませんか。

なのにも関わらず、不完全な親であっても、尊重し、最後まで敬うことを命じられたのは、傷つき苦しんだ子供たちの人生と家庭を神様が癒す為、新たに回復させるためだと思われませんか。

むしろ、子供の時代にまで、過去に捕らわれないで、その傷がまた子供に移され家庭の中で悪循環にならないように、過去の親との嫌な関係、辛い思いを、この戒めを守りながら、断ち切り、すべてを乗り切って、本来の神様が望み、描かれておられた祝福され、幸いな家庭となるために、傷ついたすべての子供たちの回復と癒しのために与えられた戒めであると信じます！！

愛する信仰の家族のみなさん!メッセージを終わらせます。みなさんは愛する家族みんな神に祝福され健康で、幸いな家庭となる事を切に望んでいるのでしょうか。心から願っておられますか。今日イエスキリストの十字架によって条件なしの犠牲が何であるかを表し、ただ私たちの為、我々の救いのために一方的な真の愛と恵みを惜みせずに与えて下さった天の父なる神様が、みなさんを癒し、みなさんの幸いな人生、祝福される家庭として回復させ、守るために、今日も我らにこう命令されています。

今日から、今から改めて、“あなたの親にただ仕方なく従う者ではなく、あなたの親を心から敬い始めなさい”と。

この約束を伴う神の戒めを信じ、従い行っているうちに、みなさんご自身が、みなさんの家庭が癒され、回復され、家族関係が守られ、神様があらかじめ定め、与えようとされたすべての約束の祝福を實際頂けるクリスチャンプレイズの全神の家族となりますように救い主イエスキリストの尊い御名によってお祈り申し上げます。アーメン！



日本同盟基督教団
クリスチャンプレイズチャーチ

Christian Praise Church